

〈市内の子ども達との関わりはありますか？〉

・地元の内田小学校5年生は、総合学習の食育活動で、田んぼアートとは別に田植えを経験しています。早苗の植え方や育て方・稲の種類など、田んぼアートとは色々な違いがあるという事が、子ども達の疑問や関心となっており、研修を兼ねた見学会を毎年実施しています。

・今後は、教育委員会を通して市内小学校の田植えや稲刈りへの参加の呼びかけを行ってきたいです。また、本年度新たな試みとして、市内の小学生に対して見学会の無料招待券を配布しました。

〈「全国田んぼアートサミットin菊川」を開催して感じたことは？〉

・全国の田んぼアート26団体、約500名が参加して、文化会館アエルで全国田んぼアートサミットを開催しました。講演会後には現場見学会や懇親会を開催し、最後に次期開催地の紹介及び再会を誓い閉会となりました。サミットでは、田んぼアートの苦労話やお国自慢など情報交換に花が咲き、親睦を深めることができました。

〈15年間継続の秘訣は？〉

・鑑賞会来場者等から「次回は、どんなテーマで何をやるの？」という期待の声が多く、期待に応えたいという気持ちが活力になっています。

・一つひとつの事業が完了した時の達成感は何物にも代えがたい。また、地域の皆さんや各団体・有志の皆さんの協力があったからこそ継続です。

〈「田んぼアート菊川」を一言で言うと？また、実行委員長の大役を長く続けておられますが、出身は九州と伺っている。会長にとって菊川市とは？〉

・「田んぼアート菊川」を一言で言うと、「地域農業の振興と活性化を図り観光の一つの要素として大きくしたものだ」と思っています。

・菊川市は、緑が多く自然がいっぱいで良い所です。

〈今後も田んぼアートを続けるための課題は？〉

・高齢化に伴い事業の継続や後継者の問題があります。地元有志やJA等の支援団体の立ち上げが必要と感じています。

・田んぼアートの会場選定に苦労しています。圃場（田んぼ）の場所や規模、駐車場の確保、水道や電気設備等が必要となります。

〈田んぼアートの活動を続けてきて良かったことや苦労したことは？〉

・続けてきて良かった事は、多くの方が見学に訪れてくれて、たくさんの方と出会えた事です。

・苦労した事は、田んぼアートが鑑賞できる、適した圃場がなく苦労しました。

ご協力ありがとうございました。



取材の協力を頂いた
田んぼアート実行委員会の皆さま